

令和6年4月－6月期 板柳町景気動向調査

青森県内の景気動向（4月－6月期）

個人消費は、一部に弱さがみられるものの、百貨店、スーパー販売額やドラッグストア販売額が前年を上回っていることから、持ち直している。生産活動は、電子部品・デバイスが持ち直しの動きに一服感がみられることから、足踏みの状況にある。雇用情勢は、持ち直しの動きに一服感がみられる。

景況調査アンケート協力事業所

	建設業	製造業	卸・小売業	サービス業	飲食業	合計
調査事業所数	10	8	12	10	10	50
有効事業所数	8	4	9	6	8	35

従業員規模	建設業	製造業	卸・小売業	サービス業	飲食業	合計
0人	1	0	0	0	0	1
1～4人	4	3	9	2	7	25
5～10人	3	0	0	4	1	8
11～20人	0	1	0	0	0	1

過去3ヵ月（R6年1月～3月）と比較して、どうですか

Q1 売上額について

	建設業	製造業	卸・小売業	サービス業	飲食業	合計
1 増加	0	1	2	0	1	4
2 横ばい	6	1	5	6	3	21
3 減少	2	2	2	0	4	10

Q2 今後3ヵ月の売上単価の見通しについて

	建設業	製造業	卸・小売業	サービス業	飲食業	合計
1 増加	0	1	0	1	0	2
2 横ばい	5	3	6	5	5	24
3 減少	3	0	3	0	3	9



価格転嫁による売上の増加も一服感がみられ、「横ばい～減少」の割合が88%以上である。

Q3 仕入単価について

	建設業	製造業	卸・小売業	サービス業	飲食業	合計
1 上昇	6	2	8	2	8	26
2 横ばい	2	2	1	4	0	9
3 低下	0	0	0	0	0	0

Q4 今後3ヵ月の仕入単価の見通しについて

	建設業	製造業	卸・小売業	サービス業	飲食業	合計
1 上昇	4	2	6	2	8	22
2 横ばい	4	1	2	4	0	11
3 低下	0	1	1	0	0	2



原材料、エネルギーコスト、人件費の上昇を要因とした仕入単価の上昇が全業種において目立っている。

Q5 採算（収益）について

	建設業	製造業	卸・小売業	サービス業	飲食業	合計
1 増加	0	0	1	0	0	1
2 横ばい	6	2	3	6	4	21
3 減少	2	2	5	0	4	13

Q6 今後3ヵ月の採算（収益）の見通しについて

	建設業	製造業	卸・小売業	サービス業	飲食業	合計
1 増加	1	0	1	0	0	2
2 横ばい	6	3	4	6	4	23
3 減少	1	1	4	0	4	10



一部企業では収益増加がみられる一方で、多くの企業で赤字幅が増大し依然として課題が残っている。

Q7 資金繰りについて

	建設業	製造業	卸・小売業	サービス業	飲食業	合計
1 好転	1	0	0	0	0	1
2 横ばい	6	2	5	6	5	24
3 悪化	1	2	4	0	3	10

Q8 今後3ヵ月の資金繰りの見通しについて

	建設業	製造業	卸・小売業	サービス業	飲食業	合計
1 好転	1	0	0	0	0	1
2 横ばい	7	2	5	6	5	25
3 悪化	0	2	4	0	3	9



資金繰りと採算については連動した形となっており「横ばい～悪化」の割合が9割以上である。

Q9 設備投資について

	建設業	製造業	卸・小売業	サービス業	飲食業	合計
1 投資した	2	0	2	1	2	7
2 投資しなかった	6	4	7	5	6	28

Q10 今後

Q11 価格転嫁状況について

	建設業	製造業	卸・小売業	サービス業	飲食業	合計
1 転嫁した	1	2	4	1	3	11
2 転嫁していない	7	2	5	5	5	24

全業種で3割以上が転嫁した回答があった。

個人消費が減少傾向にあるため売上増加には結びつかず、今後も更なる価格転嫁が見込まれる。

Q12 労働力について

	建設業	製造業	卸・小売業	サービス業	飲食業	合計
1 増加	0	0	0	1	1	2
2 変わらない	8	4	6	5	6	29
3 減少	0	0	3	0	1	4

Q13 今後3ヵ月の労働力見通しについて

	建設業	製造業	卸・小売業	サービス業	飲食業	合計
1 増加	0	1	0	2	0	3
2 変わらない	8	3	6	4	8	29
3 減少	0	0	3	0	0	3

一部で増加がみられるものの減少も同数以上で見られ、依然として厳しい状況が続いている。

Q14 前期と比べた景況の現状判断

	建設業	製造業	卸・小売業	サービス業	飲食業	合計
1 良くなっている	1	0	0	0	1	2
2 変わらない	4	2	5	6	3	20
3 悪くなっている	3	2	4	0	4	13

Q15 今後の景況の見通しについて

	建設業	製造業	卸・小売業	サービス業	飲食業	合計
1 良くなる	1	0	0	0	0	1
2 変わらない	5	1	3	6	5	20
3 悪くなる	2	3	6	0	3	14

県内経済の動向と同様に前年同期比では厳しい状況が続いている、物価上昇、円安コストが大きな要因である。

Q16 DXの取組状況について

	建設業	製造業	卸・小売業	サービス業	飲食業	合計
1 実施済み	0	0	0	0	0	0
2 実施予定	1	0	0	2	0	3
3 実施しない	7	4	9	4	8	32

DX実施予定と回答した企業が全体の3件のみであり、

Q17 最も最優先される経営課題（複数選択可）

	建設業	製造業	卸・小売業	サービス業	飲食業	合計
1 需要の低迷	4	2	4	0	2	12
2 販売価格の低下	2	1	0	1	2	6
3 原材料の高騰	7	4	7	3	8	29
4 人件費の増加	2	0	4	2	1	9
5 取引条件の悪化	1	1	1	0	1	4
6 同業者との競争激化	1	2	1	0	0	4
7 人材確保難	3	2	2	2	1	10
8 経営者の高齢化	2	1	3	1	5	12
9 後継者難	2	1	3	1	1	8
10 その他	0	0	0	0	0	0

前期に続き「原材料の高騰」を要因とした、収益圧迫によって、より一層厳しい経営状態が続いている。また、「経営者の高齢化」も通年の課題となっているため、いち早い事業承継に向けた準備が必要となってくる。

板柳町の景気動向（4月～6月期）

板柳町の令和6年4月～6月までの景気は全体的に下落傾向を示している。景況の現状判断では前回と比較し良くなっているが3件減少、悪くなっているが3件増加であり下落傾向が続いている。来期においても悪くなると回答した企業が14件と4割であり、消費低迷、労働力不足、国内外の経済不安定要因により町内企業の景況感が悪化し、投資や消費に慎重な姿勢が伺える。